

第44回兵庫県医療審議会保健医療計画部会 議事概要

- 日 時：令和5年7月11日14:00～15:00
- 場 所：兵庫県医師会館2階大会議室
- 出席委員：飯島 一誠（兵庫県周産期医療協議会会長）
臼井 里佳（兵庫県愛育連合会会長）
大村 武久（兵庫県病院協会会長）
三宅 圭一（兵庫県薬剤師会副会長）
梅村 智（兵庫県歯科医師会副会長）
市本 恵三（全国健康保険協会兵庫支部企画総務部長）
太城 力良（兵庫医科大学理事長）
丸山 美津子（兵庫県看護協会会長）
西 昂（兵庫県民間病院協会会長）
山下 淳子（兵庫県いずみ会副会長）
橋本 加代（兵庫県栄養士会会長）
橋本 寛（兵庫県医師会副会長）
浜上 勇人（兵庫県町村会監事・香美町長）
深井 光浩（兵庫県精神科病院協会会長）
- 欠席委員：島 正之（兵庫医科大学教授）
中村 文代（兵庫県消費者団体連絡協議会会長）
眞庭 謙昌（神戸大学医学部附属病院院長）

●次 第

1 開会

2 保健医療部長挨拶

3 議事と結果

（1）議決事項

①第8次保健医療計画（R6.4～）の改訂骨子案について

令和6年4月の保健医療計画次期改定に向けた骨子案（資料01-1）、新計画の主な内容（資料01-2）が説明され、全会一致で承認を得た。

4 議決事項についての主なやりとり

○議決事項 (1) - ①

委員：阪神二次医療圏域に関して、当面これを変えることは難しいが、3年後に今の流れを見て、いきなり変えることも難しい。伊丹、西宮の病院再編の動きで変わってくると思われるため、しっかりとした議論が必要である。

事務局：阪神圏域の調整会議の運営に関して、いろいろとご指摘をいただいているため、阪神北と阪神南の合同開催なども実施するようになっている。今後、圏域事務局とも話をして、先ほどいただいたご意見をはじめ、様々な課題についての議論が地域で進むように留意していきたい。

委員：病床の移動は、小さな病院にとっては、非常にデリケートな問題であり、危機感を持っているため、病床についてはしっかりと議論していただきたい。

委員：阪神南北の調整は行政でもしっかりと取り組んでいただきたい。

委員：基準病床改定値は、コロナ前の数値を採用するということであるが、3年で出生数も減少し、人口問題も地域により差がある。それらを加味しているのか。

事務局：年齢別・地域別の数字を使って算定している。

委員：5疾病6事業の中で、高齢者の救急医療について、コロナで現場でも救急隊が苦勞したと聞いている。このような議論は今後どこで審議するのか。

委員：団塊の世代が抜ける10年後はどうなるかを見据える必要があり、医療計画も3年、6年後を見据えた計画が必要である。特に、高齢者の救急はこれから全く変化する可能性があるため、議論を深めておく必要がある。重症であれば、どのような人に対しても、しっかりした救急体制をとる必要がある。

事務局：救急については、救急部会でも議論していきたい。高齢者については、1人1人の生き方もあるので難しい問題でもあり、将来を見据える事が重要である。

委員：今後高齢者は増加していき、2025年がピークと言われているが、2040年になれば、85歳以上が増え、半数が要介護や認知症ということも考えられる。また、在宅の看取り問題なども大きな問題になる。認知症の方の対応については

どのように審議するのか。

事務局：精神疾患の一部で取り扱うが、老人福祉計画の中でも取り扱う。

委員：第8次保健医療計画は6年間であるが、その間に大規模災害が起こる可能性もある。あくまで計画ではあるが、臨機応変に対応していただきたい。

委員：計画は今後改定原案の取り纏め、来年2月に答申を出し、4月に公示する。計画が決定したら、6年間運用されることになるが、途中で改正されることもあり得る。特に意見がなければ、この骨子案で進めていただきたい。